

1 教育活動の目標と方策に関する評価

※内部評価は A 満足 B 概ね満足 C 改善が必要な3段階

項目		内部評価	取組成果と課題	改善策
学習活動	1	A	年間授業計画、週ごとの指導計画に基づき、各教科で単元の目標や評価規準を意識して適切な進行管理を行うことができた。生徒の実態に応じた指導の具現化には難しさがあった。	模試分析や教科会等を充実させ、実態把握を基にした計画を推進する。
	2	A	自習室の開放や缶詰め学習会等を通じて、自主的に学習する環境を整えることができた。家庭学習の習慣化については個人差が大きく有効な活用方法を検討する必要がある。	生徒の学習到達度を把握し量や内容を精選し達成感を得られる課題を設定する。自習室や缶詰学習等の有効活用を検討し推進する。
	3	B	提示資料や共有機能の活用により興味・関心を高める授業づくりを進めることができた。教員相互の授業参観や研究協議を通して、指導上の工夫や課題の共有も図られた。	教員間の相互授業見学を活発化し授業力向上に向けた工夫を検討・実践をする。
	4	B	一人一台端末等を活用し、資料配信・課題提出・オンライン学習を円滑に進めることができた。生徒が必要な情報を収集し、課題解決に向けて活用しようとする姿勢も見られた。	実践事例の共有やスタディサプリ活用研修等、有効的な活用を進める。学習以外での活用をさらに進める。
	5	B	年間の流れや指導の方向性を整理しながら実践を進めることができた。運営上の課題も明らかになり来年度に向けた改善の視点を共有することができた。	全教員が関わる体制と「小笠原」の特徴を活かした計画の工夫を図り、学年間・教員間で共通理解を図りながら実践につなげる。
	6	A	授業や自習学習へのモチベーションを高めることができた。しかし、生徒の学習活動が滞る場面が散見され、提出物や授業スケジュールの管理が難しかった。	習熟度授業や少人数授業を活かしくラス分けの工夫やICTの活用等を進め、自ら学ぶ姿勢を育む。

進路活動	1	3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、生徒の進路実現への意識向上	A	3年生を中心に進路活動に必要な各種進路ガイダンスを計画・実施できた。1, 2年の進路ガイダンスのより一層の充実を図っていく。	総合的な探究の時間と連携したキャリア計画を進め、3年間の進路ガイダンスの時期・内容を再検討する。
	2	オンライン学習や各種検定、外部の学力テスト等への受験を促進し自己理解、望ましい職業観の育成を図る	B	小中高連携で実用英語技能検定を実施。年2回の基礎学力テストを実施。オンライン受験可能な外部模擬試験利用を促進し、進路活動に活かした。職業観の育成の推進が課題である。	各種検定や外部テスト等を3年間の学習計画に組み入れ成果を検証する。職業観を育成する取り組みを計画し内地における職場体験を推奨する。
	3	進路に関わる情報を迅速かつ的確に、生徒や保護者に提供する	B	classi や学校ホームページを活用し進路に関わる情報を生徒・保護者に周知することができた。更に保護者への進路ガイダンスの充実を図る。	計画的な面談の実施。進路に関する情報の積極的な発信及び保護者向け進路ガイダンスを実施する。
	4	面談結果の情報共有化を図り、生徒・保護者の希望を的確に把握した支援の実施	B	拡大進路部会を設け、受験生の進路希望や対策について学年・進路部で共有できた。進路についての保護者の希望の把握と共有が課題である。	定期的な拡大進路部会の開催。情報共有のためのファイルの一元化などで共有を効率化する。
	5	小笠原村教育委員会が主管する「おが高生未来の夢応援プロジェクト」への積極的な参加の推奨	A	生徒が自ら計画したプロジェクトの内容や経験を、総合型選抜や学校推薦型選抜に活かし進路実現に繋げた生徒を輩出することができた。探究活動や進路活動等と連携した活用を進める。	おが高生応援事業や探究活動、海外研修旅行、進路活動等を踏まえた3年間の計画的な活用を生徒に示す。
生活指導・安全指導	1	東京都生活指導統一基準を基に、規範意識と自律心を育む	A	LHR の時間や始業式、終業式に生活規律や学校外での行動に関する指導を行った結果、特別指導を発生させなかった。	学校全体で取り組む意識を高めるとともに、教員ごとの指導根拠の温度差が生じない指導が行える環境を整える。
	2	時間を意識して行動できるような意識の徹底を図る	B	時間を意識する取り組みは進められたが、遅刻回数は昨年を超え遅刻指導対象者も生じた。	時間を守る習慣を主体的に定着させ、遅刻総数を半減させる。
	3	道路交通法の周知及び遵守の徹底を図り、事故を未然防止する	A	交通安全教室の実施や生活指導部による登下校の立ち番指導により、交通ルールを遵守する意識を醸成することができた。今年度は登下校時における交通事故ゼロ。自転車通学者のヘルメット着用については引き続き課題である。	自転車通学者のヘルメット着用を定期的かつ継続的に指導をしていく。計画的な登下校指導を継続的に実施する。

生活指導・安全指導	4	保護者や関係機関と連携や協力ができるサポート体制を確立する	A	校則に関する資料はHPの掲載とTeamsで配信を行い、全体への周知を図っている。問題行動等への対応は、整備されている。	地域住民にセーフティ教室や交通安全教室の活動の様子をHP等通して発信していく。
	5	お互いに思いやる気持ちを醸成。いじめ防止、早期発見、早期対応に組織的対応の確立	A	いじめアンケートの調査で、いじめを示す内容はなかった。教員間で連携を取り、生徒情報を共有することができている。全国的に生命に関わる事故が増加している。命の大切さを学ぶ取り組みが必要である。	「生涯の健康に関する理解促進事業」にて「命の大切さ」を学ぶ機会を計画する。
	6	生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立	B	スクールカウンセラー二名体制となり、特別支援検討委員会による相談体制の強化を図った。	生徒支援委員会を定期的に開催し、校内体制を更に強化する。
	7	体力の向上、健康的な生活習慣の維持等、心と身体の健康づくりに取り組み、生徒の健全育成を図る	A	体力の向上、健康的な生活習慣の維持、心と身体の健康づくりに努めている。体育的な行事が、体育祭、運動会、ウインドサーフィン大会、ロードレース大会と充実している。	運動部の加入率を上げる取り組みを考案する。生徒の地域スポーツへの参加を促す。
	8	校内の環境美化を推進し、美化・清掃意識の徹底を図る	A	日々の清掃活動、学期末の大掃除を通して、校内を清潔に保つことができている。生徒数がより少なくなるなかでの環境美化の維持が課題である。	計画的な取り組みで効率的な美化活動を推進する。
特別活動・部活動	1	生徒一人一人の特性に応じて活動できる場を確保し、成就感や達成感を体得させる。	A	各行事を通して多くの生徒が活躍する機会を設けることができた。運動や芸術等の幅広い分野で、保護者をはじめ地域の方々に見てもらえることができている。生徒数が少ない中での役割分担等の工夫が課題である。	組織的な対応を図り、生徒主体の活動機会を多く与えるとともに活動のバランスを整える。
	2	部活動において、生徒の自主性を重視した活動を計画的・継続的に実施し、地域や小中学校、外部と連携した活動を実践する	A	部活動ガイドラインに則り、適切な活動を実施している。少ない生徒数で継続した活動となるような計画の工夫が必要である。	島しょの特性を理解した活動となるように他の活動とのバランスや今後の見通しを考えながら、生徒が主体的で意欲的に活動できるように整える。
	3	小・中学生とのスポーツ・文化交流を行い、「地元の小学生や中学生が憧れる学校」となることを目指す。	B	小中高連合運動会や部活動での交流を通して、高校生が小中学生に対する模範を示すことができている。生徒の負担が大きくなるように工夫する	小中との連携はもちろん地域と連携した活動についても内容等を工夫しながら継続する。

	4	生徒会活動を中心として地域の行事へ積極的に参加し、社会性及び社会に貢献する姿勢を育む。	A	自然保護研究会で小笠原諸島の生態系の調査・研究を行い学会発表を行った。限られた生徒の活動にならないように多くの活動への参加を推奨する。	生徒会を通して、全校体制で取り組める活動を考え実施していく。また、地域の行事に対して学校単位で積極的に参加していく。
学校経営・組織体制	1	学校経営計画・分掌組織目標と個人目標の整合性を図り、課題を共有することにより意識を高める。	B	学校経営計画に基づいて個人目標を設定するように自己申告面接等の機会をとらえて周知を図った。本校所属の教員は若手が中心であるため、若手教員の育成が重要である。	前例をやみくもに踏襲するのではなく、業務内容を見直し、数値的な根拠等を整理し継続した学校運営に向けて更に整えていく。
	2	企画調整会議において分掌と学年の連携を深め、課題を共有化し、協働体制を強化する。	B	企画調整会議を有効に機能させた。経験の浅い教員が多く学年分掌間を超えた取組が多く、更なる連携の強化が必要である	様々な場面で活躍の機会を与え、教員の育成を図る。
	3	教育公務員としての使命と職責の重さを自覚し、服務規律の理解を深め、服務事故を未然に防ぐ意識を高める。	A	最重要課題として服務事故防止に全職員で取り組むことができた。島しょの特性も踏まえ今後も継続した研修を行い、教員同士が防止する職場風土づくりに取り組む。	服務事故実践事例による態様の把握による意識向上を図る組織的な防止対策を進める。アンガーマネジメントや生徒理解を進める研修等を推進する。
	4	経営参画型経営企画室を目指し、関係部署との連携により、円滑な教育活動を支援する。	A	経営企画室と円滑に連携した。日頃から情報を共有し校内の施設点検を実行し、教育活動を滞らすことなく進めることができた。	教育職と行政職の一体感をより高め、経営参画を強化する。
	5	業務の効率化を進め、会議資料や保護者通知のペーパーレス化等、段階を踏みながら働き方改革を推進する。	B	会議資料、保護者通知のペーパーレス化はかなり進展した。育児支援休暇の取得などライフ・ワーク・バランスの推奨を進めることができた。	オンライン化を整備するとともに活用の工夫を検討し、職員室内の情報共有を推進する。

2 数値目標

	数値目標	結果
学校運営		
学校満足度の肯定回答率	95%以上	93.8%
おが高生未来の夢応援プロ参加	15名以上	8名
教員の相互授業見学 年3回以上	100%	100%
月当たり超過勤務時間アンダー45	100%	64%
学習指導		
進路決定率	100%	80%
土曜講習等開講講座数	15講座以上	19講座
土曜講習等受講者延数	70人以上	62名
英語検定準2級以上合格者数	7名以上	6名
生活指導・特別活動・部活動		
年間総遅刻回数	100回以下	207回
ルール・規律の遵守率	80%以上	73%
学校行事の満足度	95%以上	93.8%
生徒部活動満足度	95%以上	87%
募集広報活動		
地元中学校卒業生徒本校入学率	75%以上	61%
「学校だより」の発行回数	年5回	1回